



婦防みやぎ

題字：宮城県知事 村井嘉浩 様

『第34回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会』開催される

平成29年8月28日に、宮城県庁2階講堂において第34回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会が開催されました。

後藤会長の挨拶に続いて、研修会に先立ち表彰式が行われました。無火災地域推進功労表彰として、七ヶ宿町、色麻町、南三陸町の3町の婦人防火クラブをはじめとして、少年消防クラブ3団体、幼年消防クラブ1団体、民間防火組織指導者1人の皆様方に宮城県知事から感謝状の贈呈が行われました。

また、永年に渡り地域の防火防災活動に御尽力されました12人の方々に婦人防火クラブ員永年功労者表彰として宮城県知事から感謝状が贈呈されました。次に、役員として宮城県婦人防火クラブ連絡協議会の発展に御尽力をいただきました6人の方々に後藤会長より感謝状が贈呈されました。

その後、宮城県知事から御挨拶をいただき研修会へと入りました。仙台市太白地区婦人防火クラブ連絡協議会の高橋理恵さん、清水亮子さん、有馬志津子さんの3人による「キッズファイヤープロジェクトについて～幼年消防クラブ防火防災教室の開催～」、栗原市婦人防火クラブの佐々木あさ子さんによる「婦防は地域の要です!」、そして七ヶ浜

町婦人防火クラブ連合会の渡邊洋子さんによる「震災から復興への足跡」と題した活動発表が行われ、各地域で活発に活動されている他のクラブの状況や体験談などを知る貴重な機会となりました。

続く講演では、講師に東北大学災害科学国際研究所の定池祐季様を迎え「暮らしの中に「防災」を」と題してお話をいただきました。

定池先生ご自身も北海道厚岸島で北海道南西沖地震で被災した経験を基に、東日本大震災における発災時の行動や復興に向けた活動の様子などを、住民に寄り添う目線でお話いただきました。大変共感できるお話であると同時に大規模な災害時における自助・共助の重要性を改めて認識することができ、とても有意義な講演でした。

研修会には400人を超える県内婦人防火クラブ員が集まり、各地域の活動状況や講演に熱心に耳を傾け、熱気に包まれた研修会となりました。

最後に、参加者全員で力強く防火宣言を行いました。「自分達の地域から火災を出さない、自分達の地域は自分達で守る」というスローガンを全員で読み上げ、参加されたクラブ員は防火の思いを新たにしました。



～自分達の地域から火災を出さない 自分達の地域は自分達で守る～
宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

事務局

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
宮城県総務部消防課内（宮城県庁5階）
TEL 022(211)2374 FAX 022(211)2398

行事と共に

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

会 長 後 藤 重 子



当協議会の平成29年度事業の一つとして、各地域の理事を対象とした移動研修を南三陸ホテル観洋で行いました。南三陸町の現状を目の当たりにして、改めて東日本大震災の傷の深さと地域ボランティアや自分たちで成さなければならない「自助・共助・公助」の大切さを感じた研修でした。

また、昨年11月26日に仙台市で行われました防災推進国民大会2017(ぼうさいこくたい)では、(一財)日本防火・防災協会から要請があり、非常食であるアルファ米と仙台風芋煮の炊き出しを仙台市及び周辺地区合同

で実施させていただき、クラブ員の連係プレーの良さを各団体の皆様に知っていただくことができました。

さて、全国各地で自然災害や火災が発生しており、特に火災では痛ましい死亡事故が起きております。私たち婦人防火クラブは、地域に根ざした活動を期待されているところでございます。「自分たちの地域から火災を出さない 自分たちの地域は自分で守る」のスローガンのもと、皆様と共に更なる防火意識の向上を目指して活動を続けてまいりたいと思います。よろしく御協力の程お願い申し上げます。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会役員名簿 (平成30年1月1日現在)

役 職	氏 名	地 区 名
会 長	後 藤 重 子	塩 釜
副会長	八 木 弥 生	仙 台 宮 城
//	佐々木 文 子	大 崎
//	高 橋 則 子	名 取
理 事	穀 田 梅 子	仙 台 青 葉
//	菅 原 政 子	仙 台 宮 城 野
//	山 田 はるみ	仙 台 若 林
//	高 橋 理 恵	仙 台 太 白
//	今 野 なみい	仙 台 泉
//	郷 内 妙 子	岩 沼

役 職	氏 名	地 区 名
理 事	佐 藤 千 賀 子	登 米
//	菅 原 和 子	栗 原
//	松 崎 明 子	黒 川
//	佐々木 貞 子	石 巻
//	嶋 田 陳 子	亶 理
//	青 木 孝 子	仙 南
//	吉 田 ふみ子	気仙沼・本吉
監 事	古 内 昭 子	仙 台 泉
//	咲 間 政 子	岩 沼



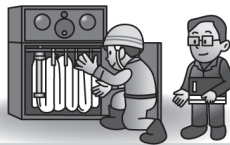
広告

～県民の安全・安心な暮らしを支えて～

消防用設備等の適正な点検により安全・安心な毎日を支えます

宮城県と災害時における応援協力に関する協定の締結をしています。

- ・ 公共施設の消防用設備等の緊急点検
- ・ 要請により消防用設備等の応急復旧の為に技術者を派遣
- ・ 緊急避難施設への簡易トイレ、消火器などの提供
- ・ 協会会員の所有する給水車等、機材とオペレーターの提供



一般社団法人宮城県消防設備協会

会長 櫻井 勝雄

〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 電話 022-223-3650

全国統一ラベル
消防用設備等の適正点検の証!!



消 火 器 用



消火器以外の消防設備等用

宮城県消防設備協会



宮城県の婦人防火クラブに寄せて

宮城県知事 村 井 嘉 浩



婦防みやぎ第37号の発行、誠におめでとうございませう。皆様には、日頃から家庭や地域の防火・防災活動の推進に御尽力をいただいております、心から感謝申し上げます。

今年は、東日本大震災の発生から7年目を迎え、宮城県震災復興計画の「発展期」のスタートとなります。復興の総仕上げとして、平成30年度内に全ての災害公営住宅が完成するようラストスパートをかけるとともに、被災された方々の心のケアや新しいコミュニティーの形成支援など、県民の皆様には復興を実感していただけるよう、引き続き取り組んでまいります。また、2年後の東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、国内外から訪れる多くの皆様には東日本大震災からの復興と、これまでの支援への感謝をPRできるよう、しっかりと準備してまいります。

昨年を振り返りますと、東北地方の各地で大規模な山林火災が発生いたしました。4月に発生した福島県浪江町及び双葉町において、鎮火までに12日間を要し75haを焼損した山林火災のほか、5月には岩手県釜石市で2週間で413haの山林が焼損しました。また、同じ時期に本県の栗原市でも山林5.6haを焼損したほか、

強風により離れた住宅地に飛び火し、24棟の建物が全半焼する火災が発生したところです。例年、春先は多くの山林火災が発生する時期となりますが、こうした火災を教訓として、引き続き地域における火災予防の啓発に御協力をお願いいたします。

さて、今年には昭和23年に自治体消防制度が施行されてから70周年という節目の年を迎えます。婦人防火クラブは、「家庭における火の使用責任者たる婦人を中心とし、家庭から生ずる火災の発生を予防する」ことを目的として、昭和37年から全国の各地区で結成されるようになりました。本県においては、宮城県婦人防火クラブ連絡協議会が昭和56年に設立されたのを皮切りに、県内各地で婦人防火クラブが相次いで設立され、昭和60年から現在に至るまでクラブ数、クラブ員数ともに全国で一番の県となっております。これまでの継続的な活動により、地域の防火・防災を支えていただいた婦人防火クラブ員の皆様に改めて感謝申し上げます。

県といたしましても、婦人防火クラブの皆様や関係機関の皆様と連携しながら、これからも地域の防火・防災の推進に取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

火の用心 ことばを形に 習慣に (平成29年度全国統一防火標語)



広告

NITTAN

ニッタン株式会社
東北支社



〒980-0021 仙台市青葉区中央一丁目6番35号
東京建物仙台ビル4階

電話 (022) 266-6111

FAX (022) 266-6119

http://www.nittan.com



笑顔で紡ぐ 防火防災

仙台市青葉地区婦人防火クラブ連絡協議会

副会長 佐藤 幸子

仙台市青葉地区婦人防火クラブは昭和58年9月19日に発足し、現在5つの支部からなる68クラブで構成し、仙台市中心部を広範囲にカバーしています。

年間行事として、8月は勾当台公園において「せんだい防災のひろば2017」に参加して、試食用に非常食「アルファ米」を用意したところ、市民の皆様が行列を作る程の盛況ぶりでした。

「秋の火災予防運動」では、11月9日の119番の日に仙台市中心部の繁華街をカラーガード隊と消防音楽隊の軽快な曲に合わせて、法被姿のクラブ役員が街を歩き交う人達に防火を呼び掛けるパレードを行いました。

また、仙台国際センターで開催した4年に1度の「仙台市婦人防火クラブ大会」では、「笑顔で広げる住宅防火」と題し、婦人防火クラブ、消防団、消防署の3つの団体が合同で住宅を一軒一軒訪問して火災予防を呼びかける「戸別防火訪問」について発表しました。訪問先では、住宅用火災警報器や家庭用消火器の設置点検等を行い、戸別防火訪問実施結果をまとめ、傾向と課題を検討する等、大きな成果を上げたと考えています。更に11月には、仙台国際センターで「防災推進国民大会2017」に参加し、「アルファ米」と「仙台風芋煮」の炊き出しを行って、多くの来場者に提供しました。また、平成26年に開催された「国連防災世界会議」では、外国の方々に日本の文化を紹介すべく、勾当台公園で臼を使用し餅をついた際、その音が会場に響き渡り大勢の人垣ができ、短時間で試食が終了したのを懐かしく思い出しました。これらは、防火意識の高揚を図る普及啓発活動の一環として行っています。青葉地区では、支部ごと年間行事として防火防災活動を組み入れています。

私の所属する国見支部では、国見学区22町内会のうち9

つの町内会が婦人防火クラブを結成し活動しています。具体的には、国見夏まつりで、小学校校庭に老若男女が集う中子供達を中心に防火を呼び掛けました。

「春・秋の火災予防運動」では、春は小学校の児童の登校時に、秋は早朝7時半からJR仙山線の北山駅、国見駅、東北福祉大前駅の3つの駅で、通勤通学に合わせて防火キャンペーンを行いました。このほか、児童館では避難訓練に参加し、指導等に当たり、連合町内会の防災訓練では普通救命講習会、AEDの使い方、避難所設営を行いました。このような訓練には、中学生や国際交流会館の外国人、大学生が参加する地域もありました。

寒さも厳しい1月26日の「文化財防火デー」では、国宝大崎八幡神社の防災訓練でバケツリレーを行いました。また、2年に1度、火災予防運動期間中には、町内会毎に防火を呼び掛ける「夜回り」を防犯と並行して行っています。この取組では、婦人防火クラブ員、町内会役員、国見消防出張所員及び交番の警察官が一緒になって、拍子木を叩き「火の用心」と声を掛けながら町内を回ります。

東日本大震災以降、毎年大きい自然災害が発生していますが、「いざ」という時に何ができるかを常日頃から考え、防火・防災の普及啓発活動に、今後も日々努力していく必要があると考えています。



広告

“安全は地球に暮らす人々の “共通言語”です



東北支社：〒980-0803 仙台市青葉区国分町2-14-18 ☎022(261)7221[代表] 支社長 小山 賀久



クラブの歴史と使命

塩竈市婦人防火クラブ連合会

会長 小林 眞佐子

浅海漁業を営む多くの地域で、夫や息子が海へ出た後、家の火は自分たちで守るという気持ちから、昭和40年代から少しずつですが防火クラブが結成され、昭和50年4月に当婦人防火クラブ連合会として誕生しました。

他市町と違うのは、任意クラブであったことから様々な問題が出てきたことも事実です。

平成の現在、クラブ員の高齢化の問題・自主防災組織・女性消防団の結成などがあり、クラブ数が減少する状況になっております。

このような状況から、地元のラジオ番組に出させていただき、主婦の目線から防火・防災に関して話をいたしました。

平成22年の6月から平成23年2月まで東日本大震災発災の前月まで続いたのです。

発災後、避難所で放送を聞いていたので、非常持出袋を持参したとのお話があり、よかったと安堵したことを覚えております。

その後、25・26・27年とパーソナリティの方と対話形式でラジオ放送は続いておりました。私としてもクラブ員の募集も兼ねておりましたが、なかなか難しくつなげるこ

とはできませんでした。当時、私たちは避難所運営の仕方など訓練をしておりましたので、婦人防火クラブ員は地区で聞いていたようです。ハンドマイクを持ち車で食物・灯油の配付について知らせていた理事さんもあり、避難所でも落ち着いて行動していたと理解しております。

このようなことから、私たちが積み上げてきた様々なスキルを地域の皆さんと協力し発揮できたことは、日頃からの訓練や勉強が非常に大切だと改めて感じたことです。

自主防災組織を含め、行政も巻き込む防災減災を今後も考え行動していくことが、いま求められていると思料します。

現在14クラブで活動しておりますが、浦戸のクラブ員の方々とも交流を重ねながら、楽しく・美しく・スマートに行動し、実践したり、そして、クラブ員の資質の向上に一層努力をしてみたいと考えます。

これからの婦人防火クラブの使命、目標は防火・防災・減災を含めて、安全で安心なまちづくりのため、各団体と連携をしながら、共により良い方向性を見い出し、実践を重ね次世代につなぐことも大切でしょう。



広告

あなたのおうちは大丈夫？

住宅用火災警報器は、
10年を目安に交換をおすすめします。

NOHMI 能美防災株式会社
東北支社：〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-20

住宅用火災警報器 **まほろゆ** 国家検定合格品

おかげさまで100周年
100th
安全・安心をこれからも。

単独型 部屋の美観を保つ、コンパクトタイプ



無線式連動型 別の階や離れた部屋での火災もいち早くお知らせ





黒川地区婦人防火クラブ連合会の活動について

黒川地区婦人防火クラブ連合会

会 長 松 崎 明 子

東日本大震災から間もなく7年が経過しようとしております。震災で亡くなられた方の御冥福と、被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、早い復興と被災された方々の平穏な日常生活が一日でも早く取り戻せますよう心より願うものであります。また、昨年も日本各地で豪雨災害が起り甚大な被害が発生しました。災害は、「いつ、どこで起きても不思議ではない」自然の脅威を改めて実感し「災害への備えの大切さ」を痛感いたしました。

黒川地区婦人防火クラブ連合会は、一昨年に市制移行した富谷市、大和町、大郷町、そして大衡村の1市2町1村で構成しております。当連合会は、昭和51年に「自分の家から地域から火事を出さない出させない」を合言葉に結成され、現在の管内人口は、約9万5千人、世帯数は約3万5千世帯、1世帯1名の加入を目指す婦人防火クラブ員は約1万9千人が活動しております。

婦人防火クラブの活動内容としては、各支部で実施している初期消火や応急処置訓練等の研修会や夜間に拍子木を打っての「昔ながらの夜回り活動」を取り入れた火災予防広報、大型商業施設での火災予防や住宅用火災警報器の設置促進及び維持管理等の普及啓発活動を行うなど、各支部それぞれに工夫を凝らした活動を実施しております。また、連合会が主催する研修会として、毎年防火に関する講師を招いての講演会を開催しております。昨年は、8月20日に大和町まほろばホールを会場に、約700人の会員が参加し第39回目となる研修会を開催しましたが、例年と少し趣向を変え、「和太鼓演奏をとおして」と題し地元の演奏家、打藝衆(だげいしゅう)「傀(かい)」を招いての、太鼓の生演奏を堪能いたしました。参加者の講演

会に対する意見は賛否両論ありましたが、私としては成功裏に終わったものと確信しております。

連合会の課題としては、管内人口や世帯数は増加しているのに、クラブ員数が伸び悩んでいることです。これまでも新興住宅地区には、各支部や関係機関等を通して婦人防火クラブの結成を働きかけておりますが、全地区の結成には至っていないのが現状です。

昨年の研修会で講演をお願いした、打藝衆「傀」の代表は寺の住職さんで、家族とその仲間達で結成しているとのことで、演奏には代表の子供さんも参加しておりました。代表の話の中に「子供に太鼓は教えていない。夫婦でやっているの、練習の場所に連れて行くことで、自然に太鼓を覚え、自然に舞台上上がるようになった。」とのことでした。正に「門前の小僧習わぬ経を読む」であります。婦人防火クラブの結成や加入を促すより、婦人防火クラブが色々なところで活動することで、その活動する姿を見て、興味や関心を持ってもらうことが、結成や加入につながるのではないかと改めて思いました。私たち婦人防火クラブの活動は、地域や地区での小さな活動ですが、今後もクラブ員と協力し、「防火の輪」を広めて行くとともに、「いつ起こるかわからない災害」に備えて行きたいと思えます。

最後になりますが、昨年の春に、多年にわたる婦人防火クラブ活動が認められ、日本消防協会から表彰状をいただきました。これもひとえに、黒川地区婦人防火クラブ連合会の会員及び関係機関の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。今後とも連合会長として与えられた職を邁進して参りますので、御支援と御協力をお願い申し上げますとともに、県内婦人防火クラブ員の皆様のますますの御活躍と御健勝をお祈り申し上げます。



活動報告 「防災推進国民大会2017における炊き出し」

平成29年11月に仙台国際センターにおいて、世界防災フォーラム(25日～28日)、防災推進国民大会2017(26日～27日)、2017防災産業展in仙台(26日～27日)の3つの防災イベントが同時に開催されました。

このうち、(一財)日本防火・防災協会から当協議会に「防災推進国民大会2017」初日における炊き出しの提供について協力の要請があり、仙台市6地区(青葉、宮城野、若林、太白、泉、宮城)及び周辺4地区(名取、黒川、塩釜、仙南)の計10地区合同で炊き出しを実施しました。

提供する食事は、災害時における炊き出しを想定

しつつ地元らしさと季節を前面に出したメニューとして、お湯だけでご飯が作れる「アルファ米」と里芋と豚肉を使った「仙台風芋煮」を提供しました。

炊き出し当日は、肌寒いながらも穏やかな日差しで天候に恵まれ、婦人防火クラブ員30人が早朝から準備を行い、お昼前に炊き出しの提供を開始しました。

イベントを見に来られた方だけでなく、参加者にも振る舞われ、特に芋煮は身体の芯から温まると大変好評で、用意した1,200食以上分の全てを提供することができました。



広告

皆様には常日頃LPガスをご愛顧賜り、誠にありがとうございます。

当協会は、県内の全LPガス販売事業者と一緒に、皆様が快適な生活を過ごせますよう、今後も努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



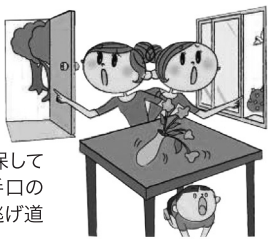
◆地震が起きた時の心構え◆

地震が発生したら、まず第一にご自身やご家族の安全を確保することが大切です。日頃から、ご家庭にて有事の際に取るべき行動をご家族と確認しておきましょう。

心構えその1

自分の身を守りましょう

まず、身の安全を確保して下さい。(玄関や勝手口の扉、窓などを開けて逃げ道を確認しましょう。)



心構えその3

巨大地震後にガスを使用する時には

- 自宅のLPガスボンベ等が倒れていないことを確認して下さい。
 - 地震発生時(震度5程度以上)、ガスを使用していた場合はマイコンメーターが自動的にガスを遮断していることがあります。
 - この場合、ご自身でマイコンメーターの復帰操作※を行えば、ガスがご使用になります。日頃から、販売店に確認しておく役立ちますね。
- ※右記「マイコンメーターの復帰方法」をご参照下さい。



心構えその2

火の始末をしましょう

器具栓、ガス栓及び容器バルブを閉めて下さい。

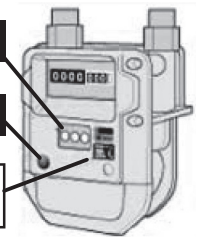


マイコンメーターの復帰方法

表示ランプ

復帰ボタン

検定有効期限ステッカー



すべてのガス栓・器具栓が「閉まっていること」を確認してください。マイコンメーターの[復帰ボタン]のキャップを外し、ボタンをしっかり押して[表示ランプ]が点灯したら手を離してください。1分後、ランプの点滅が消えていけば、ガスは安全にご使用出来ます。

※この方法でガスが使用出来ない場合は、販売店に連絡して下さい。

●LPガスを安全に使用するため、又、LPガスが使用出来なくなった時に備え、LPガス販売店の緊急連絡先「電話番号」を確認しておきましょう。

【一般社団法人 宮城県LPガス協会】 〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 TEL.022-262-0321

住宅用火災警報器

宮城県消防課からのお知らせです



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

取り付けたそのあとは…

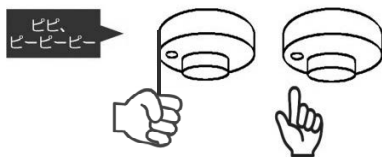
住宅用火災警報器は、火災の発生をいち早く知らせてくれる大変有効なものです。しかし、火災の発生を知ったその後の行動が適切でないと被害が拡大してしまうこともあります。

「いざ」というとき、住宅用火災警報器がきちんと動くために大切な日頃の点検・お手入れ方法などについてお知らせします。

定期的に作動確認し、警報音を聞きましょう！

1ヶ月に1回

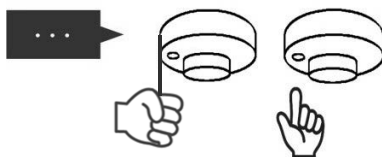
1ヶ月に1回程度、作動確認を実施しましょう。警報器のボタンを押す、ひもを引くなどして確認できます。



● 次のときにも必ず作動点検をしてください。

- ① 初めて設置したとき
- ② 設置場所を変えたとき
- ③ 掃除をしたとき
- ④ 長い間留守にしたとき
- ⑤ 電池を交換したとき
- ⑥ 故障や電池切れの疑いがあるとき

● 音が鳴らない場合は？



「電池切れ」か「機器本体の故障」が考えられますので、詳しくは取扱説明書を確認してください。

ご注意ください

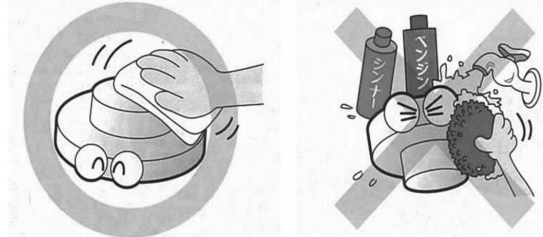
- 火災警報器の種類によって、細かい注意点が異なります。製品に付属している取扱説明書を必ずご覧ください。
- お手入れや作動確認は、高所での作業となり、転倒や落下などの危険があります。安定した足場を確保して、作業を行ってください。
- 煙の出る殺虫剤などを使用すると、警報音が鳴ることがあります。本体をビニール袋で覆うなどしてください。殺虫剤使用後は必ず警報器を元の状態に戻してください。

汚れた時のお手入れの仕方

1年に1回

警報器にほこりやクモの巣が付くと火災を感知しにくくなります。

1年に1回は、乾いた布で拭き取りましょう。汚れが付着した場合は、家庭用中性洗剤に浸して十分に絞った布で軽く拭き取ってください。



● 次のことは絶対にしないでください。

故障や破損の原因になります。

- ① ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。
- ② 水洗いは絶対にしないでください。
- ③ お手入れの方法は機種によって違いますので、取扱説明書をご覧ください。

10年を目安に

交換の時期

住宅用火災警報器は、古くなると部品の故障や電池切れなどにより火災を感知しなくなることがあります。設置から最大10年を目安に交換しましょう！